

江戸時代の陸上・河川交通

静岡県立中央図書館 歴史文化情報センター

江戸時代の陸上交通の発達

- ・陸上交通：豊臣秀吉の天下統一の過程で整備が始まる。これを江戸幕府が引継ぎ、江戸、京都、大坂の三都と各地の城下町をつなぐ全国的な街道が完成した。
- ・五街道：東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中
江戸日本橋を起点として、街道は道中奉行が管理した。
- ・脇街道：伊勢街道・北国街道・中国街道・長崎街道

宿駅について

- 宿駅(しゆくえき)：街道が通る城下町の中心地におかれた。それ以外の宿駅は小都市(宿場町)として地域流通の要となる。
- 宿駅には問屋場がおかれ、問屋・年寄・長付などの宿役人が伝馬役の差配、公用の書状や荷物の継送り(継飛脚)にあたるやがて本陣、脇本陣、旅籠屋、木賃宿などの宿泊施設が整備された。
- 東海道の宿は、品川～大津間に53宿、大津～大坂間に4宿
- 中山道には板橋～森山間に67宿があった。

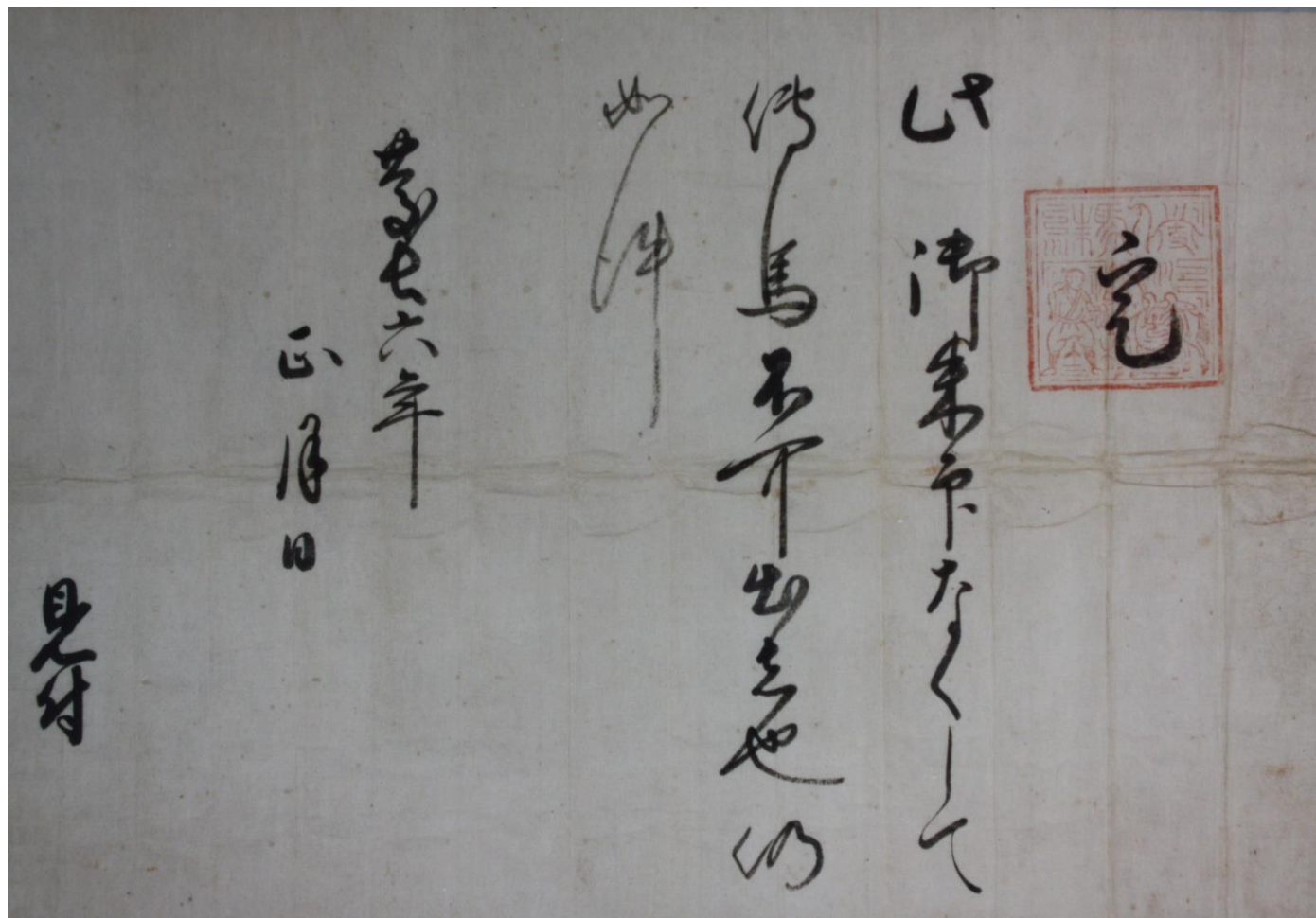
一里塚、箱根・新居の関所、伝馬役

- ・一里塚：約4キロごとに設置された道標
- ・関所： 東海道の箱根・新居、中山道の碓井、木曾福島
甲州道中の小仏、日光道中・奥州道中の栗橋
- ・関所手形持参が義務 「入り鉄砲に出女」を特に厳しく取り締まる。
- ・伝馬役(てんまやく)：幕府や大名の御用通行のために、使用された人馬を、無料あるいは通常の半額程度の賃銭で徴発し、宿駅の町人や百姓が負担した。
17世紀中ごろから、東海道各宿駅100人・100疋、中山道では50人・50疋、甲州、日光、奥州道中では25人・25疋を常備した。

伝馬朱印状

1601(慶長6)年正月、家康は東海道に宿場を設定し、その宿場への印鑑証明ともいえる伝馬朱印状と、その宿場の継立区間や無私伝馬屋敷地の広さなどを示す伝馬定書を下付した。これは見付宿へ宛てた伝馬朱印状である。

磐田市教育委員会所蔵資料



慶長六年正月 見付宿宛の

徳川家伝馬朱印状

定

此 御朱印なくして伝馬不可出者也、仍
如件

慶長六年

正月 日

見付

左富士

東海道を西方へ向かうと、右側に富士山が見えるのが普通である。

しかしその中で吉原宿は宿場を北方へ移したために、前後の宿場とその道筋が変わり、原宿と吉原宿の間で富士山を左前方に見る場所が出現した。

静岡県立美術館所蔵資料



問屋場

歌川広重は保永堂版・東海道五十三次の藤枝宿で、問屋場の様子を描いている。問屋場は宿場の人足や馬を差配する宿場機能の中核で、問屋商人以下の宿役人が詰めて業務にあたった。

静岡県立美術館所蔵資料



参勤交代

石高5万石とあるので1829(文政12)年以降であるが、沼津藩水野氏の忠義・忠武・忠良の3代のいずれかの沼津入部行列を描いている。

西尾市岩瀬文庫所蔵資料「沼津水野出羽守御入部行列」

- ▶ この資料は学校教材専用です。
▶ ここでは御覧いただけません。

二川宿本陣

街道筋の宿場には旅人が宿泊する旅籠屋や茶店が軒を並べた。その中で本陣は参勤交代の大名や幕府役人・公家などが利用する最高級の宿泊施設であった。本陣は宿場文化の発信地でもあった。

愛知県豊橋市 二川宿本陣資料館所蔵資料



舞阪宿脇本陣

東海道の宿場には平均して2軒の本陣があった。しかし参勤交代で東海道を
利用する大名は150家前後あり、時期が集中したので、それを補完する
ために脇本陣を設置した宿場も多い。

浜松市西区役所町づくり推進室所蔵資料



松並木(舞阪町)

歴史文化情報センター資料

1604(慶長9)年ごろから幕府は東海道をはじめとする五街道の道の両側に土手を築き、そこに多くの松を植樹した。成長した松並木は冬は寒風を防ぎ夏は日陰となったので、旅人の憩いの場となった。



岩淵の一里塚

歴史文化情報センター資料

江戸時代に築造された東海道の里塚。慶長9年(1604)2月、幕府は東海道の一里ごとに、5間(約9m)四方の塚を築いて榎を植え、「一里塚」と呼び、大名等の参勤交代や旅人の道程の便を図った。



遠州新居関所之図

新居関所は初めは幕府直轄で江戸から新居関所奉行が派遣されていたが、1702(元禄15)年より三河国吉田藩が管理した。
これは1854(嘉永7)年の倒壊前の建造物図である。

湖西市教育委員会所蔵資料



新居関址

箱根とともに重要な関所であった新居関所は、今切渡船の発着所に設けられたので、今切関所ともいった。現在全国で唯一残る関所の建物は1855(安政2)年の築造で国の特別史跡に指定されている。

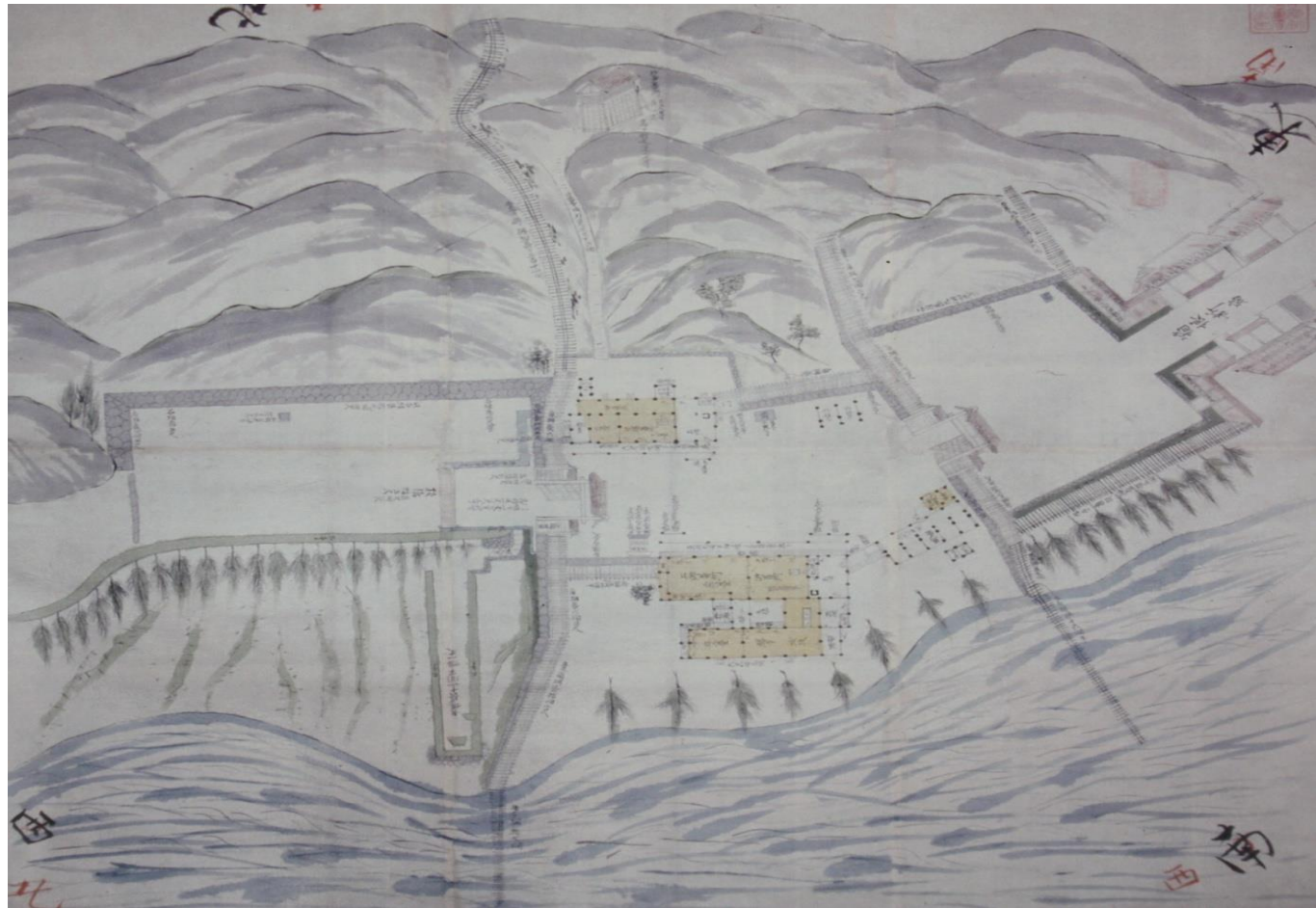
湖西市教育委員会所蔵資料



箱根関所之図

江戸時代の関所は俗に「入り鉄砲に出女」を取り調べたが、小田原藩が幕府から預かって管理した箱根関所は特に出女を取り調べた。箱根関所を無事通過した旅人の中には、山祝いをして喜ぶ者もいた。

小田原市立図書館所蔵資料



箱根関所

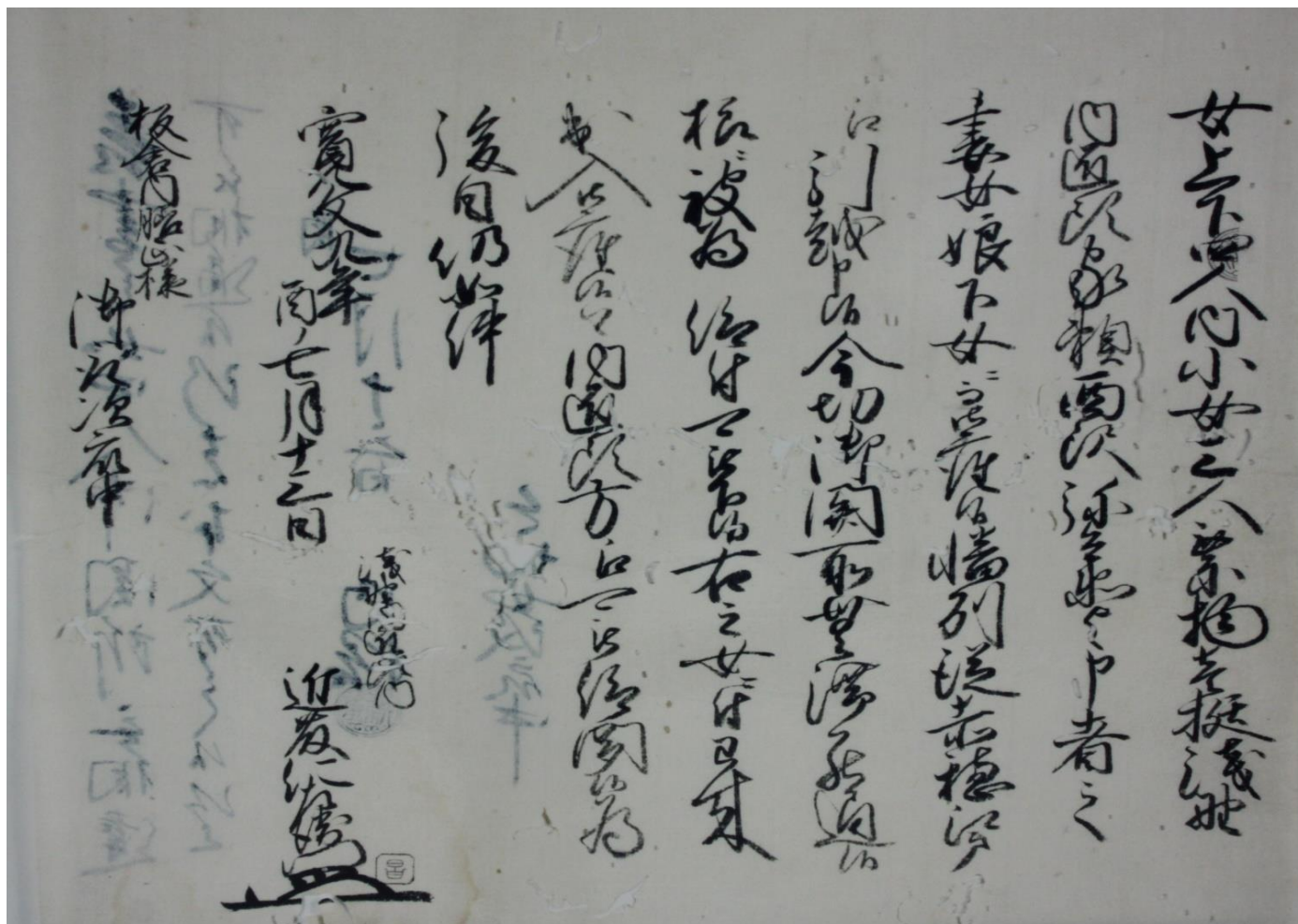
江戸時代には街道が整備されて治安も良くなり、庶民の旅が急速に発達した。
しかし一方で街道の要所に関所が置かれ、遠江国以東の大河川には橋が架けられて
おらず旅人を悩ませた。箱根・新居の関所は全国でも最大規模の関所である。

箱根関所資料館所蔵資料



関所手形

「入り鉄砲に出女」を取り調べた関所は、江戸方面へ向かう鉄砲は老中が発行する鉄砲手形、江戸方面から西方へ向かう女性は幕府所定の役人や大名が発行する女手形がなければ通ることができなかった。 湖西市教育委員会所蔵資料



関所手形 湖西市教育委員会所蔵資料

女上下四人内 小女三人乗物壹挺

浅野内匠頭 家頼西沢弥兵衛与申者之

妻女娘下女二而御座候 幡州従赤穂江戸

江引越申候 今切御関所無滞罷通候

様二被為仰付 可被下候 右之女二付 已来

出入御座候ハバ 内匠頭方江可被仰聞候 為

後日仍如件

浅野内匠頭内

近藤仁左衛門

寛文九年

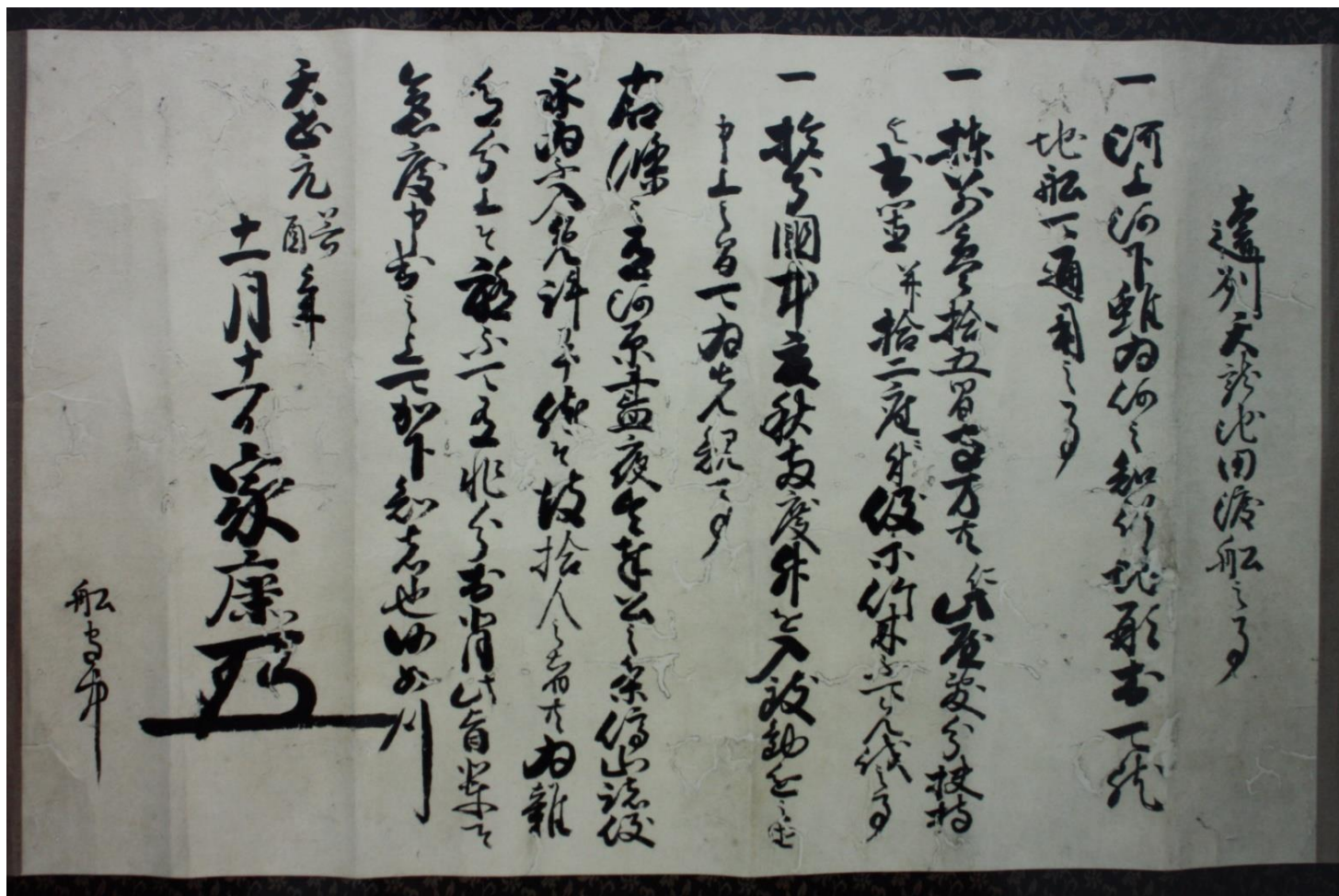
酉ノ七月十三日

板倉内膳正様

御取次衆中

家康の朱印状

東海道の富士川・天竜川・今切などは船によって渡った。そのうち天竜川今切渡船については、徳川家康が浜松在城時代に池田・新居の船守へその運営権を保障した。
大庭家所蔵資料



天正元年十一月

池田渡船の諸役を安堵する家康判物

遠州天龍池田渡船之事

一 河上河下雖為何之知行、地形於可然地、

船可通用之事

一 棟別參拾五間寺方共に、此屋敷分扶持与出置、并拾

二座二付役等竹木不可見伐之事

一 於分国中、夏秋兩度升を入、致勸進之由申上之間、

可為先規事

右条々、有河原昼夜令奉公之条、停止諸役永為不入免

許畢、然者、彼拾人之者共為雜色分上者、聊不可有非分、

於背此旨輩者、急度申出之上、可加下知者也、仍如件

天正元年癸酉年

十一月十一日

家康(花押)

船守中

東海道五十三次(蒲原)

歌川広重は1833(天保4)年に保永堂で東海道五十三次の浮世絵で大好評を得た。これは隸書版のうちの蒲原宿であり、富士川渡船を描いている。

静岡県立美術館所蔵資料



東海道五十三次(府中)

広重は1832(天保3)年京都へ旅をした経験により、翌年に保永堂より東海道五十三次を出版した。これは府中宿で、安倍川の川越しを描いている。

静岡県立美術館所蔵資料



東海道五十三次(奥津)

興津川は川幅25間(約45m)で、徒渡しであった。

駕籠からはみ出しそうな力士を4人掛りで担ぐ駕籠かきと自分よりも大きな力士を乗せた馬の絵をユーモラスに描いている。

静岡県立美術館所蔵資料



大井川往来之図

大井川では幕府が置かれた関東防衛上橋が架けられず、
図のように川越人足による徒渡で人々が往来した。

(財)利用運送振興会 物流博物館所蔵資料



大井川徒渡

江戸幕府は各地の街道施設を整備したが、遠江国以東の大河川には橋を架けず、渡船や川越人足によって渡ることを強制した。なかでも大井川の川越しは、旅人から最も恐れられた難所であった。

(財)利用運送振興会 物流博物館所蔵資料



研究の手引き(参考資料)

・『静岡県史通史編3 近世一』

第二章 徳川政権の成立と駿遠豆

第四節 東海道二十二宿の成立 142頁～164頁

第四章 交通制度の整備と藩政の展開

第一節 宿駅制度の確立 423頁～453頁

・『図説静岡県史 静岡県史別編3』

第4章 近世

7. 東西の道 東海道 136頁～139頁

12.大名と参勤交代 148頁

14.箱根の関と新居の関 152頁・153頁

15.越すに越されぬ 154頁・155頁

研究の手引き(参考資料)

- ・慶長六年正月 見付宿宛の徳川家伝馬朱印状 磐田市教育委員会
- ・左富士 歌川広重 東海道五十三次 吉原 静岡県立美術館
- ・問屋場 歌川広重 東海道五十三次 藤枝 静岡県立美術館
- ・沼津藩水野氏入部行列図 愛知県西尾市岩瀬文庫
- ・二川宿本陣現況 二川宿本陣資料館
- ・舞阪宿脇本陣 浜松市西区役所町づくり推進室
- ・松並木(舞阪町)・岩淵の一里塚(富士市) 歴史文化情報センター
- ・遠州新居関所之図・新居関址・関所手形 湖西市教育委員会
- ・箱根関所之図 小田原市立図書館
- ・箱根関所 現況 箱根関所資料館
- ・天正元年十一月 池田渡船の諸役を安堵する家康判物 大庭家
- ・東海道五十三次(蒲原) 静岡県立美術館
- ・東海道五十三次(府中) 静岡県立美術館
- ・東海道五十三次(奥津) 静岡県立美術館
- ・大井川往来之図・大井川徒渡 (財)利用運送振興会 物流博物館
- ・『資料に学ぶ静岡県の歴史』

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/history/ssr.html>